

第2回白河市複合施設整備基本計画検討懇談会 議事録

- 1 日 時 令和2年1月30日（木）13：30～15：00
- 2 場 所 マイタウン白河 2階 中会議室2
- 3 出席者
 - 会 長：市岡 綾子 （日本大学工学部 専任講師）
 - 副会長：藤田 龍文 （株式会社楽市白河 取締役副社長（白河市中心市街地活性化協議会））
 - 委 員：池下 和子 （特定非営利活動法人あったかたいむ 代表）
 - 石川 格子 （公募）
 - 金子 善弥 （白河市生涯学習推進会議 委員）
 - 君島 正信 （白河市地域活性化協議会等連絡調整会議 会長）
 - 鈴木 茂毅 （白河医師会 会長）
 - 鈴木 順子 （白河市子ども・子育て会議 委員）
 - 鳴島 あや子（白河市公民館運営審議会 副委員長）

事務局：鈴木 市長公室地域政策担当理事、今村 参事兼企画政策課長、
仁平 課長補佐兼政策推進係長、八巻 主査、関根 副主査

その他：(株) オリエンタルコンサルタンツ3人（山本、石田、栗田）
- 4 次 第
 1. 開 会
 2. 議 事
 - (1) 市民アンケート及びインタビュー調査の実施状況について
 - (2) 複合施設のコンセプト及び導入機能について
 - (3) その他
 3. 閉 会

<議事概要>

【会長】

本日は、第2回目の懇談会でございますが、議事（1）についてはアンケート調査の速報値の報告となりますので、議事（2）をメインに検討していくこととなります。

まず、議事の（1）について、事務局より説明願います。

（1）市民アンケート及びインタビュー調査の実施状況について

（資料1、資料2、資料3により事務局説明）

【会長】

ありがとうございます。資料の1から資料の3までという形でご説明いただきました。アンケートは目標値も超えており、必要としているサンプル数も得られたということですので、概ね良好な調査結果が得られたのではないかと思います。詳しい紹介は次回ということですので、良好な調査が行われたという報告を受けたこととなります。委員の方々から特になければ、次の本日のメインの議事に移ります。お気付きのことがございましたら、後日でも構いませんので、事務局までご連絡ください。

では、議題（2）「複合施設のコンセプト及び導入機能」について、説明をお願いします。

（2）複合施設のコンセプト及び導入機能について

（資料4、資料5により事務局説明）

【会長】

ありがとうございます。第1回懇談会の際に、多くの方に話を伺うことを促す資料がありましたので、様々な方の意見も伺いながら今日場に臨んでおられることと思います。本日の議論は大きく二つに分かれておりますので、まずは整備コンセプトと整備方針の方から始めたいと存じます。

今も事務局からご説明がありましたように、資料5の左の図を見ていただきますと、最終的にはコンセプトが出てくるわけですが、それを今急いで作るということではなく、それを作るためのベースとなるものが三つございます。一つ目がすでに出されている基本方針。二つ目が本日皆さまにお集まりいただいております懇談会、ここで今日色々話していただく部分になります。さらに三つ目が次回ご報告いただきます、市民アンケート。これらを合わせて、次回の第3回懇談会のときには、さらにブラッシュアップして、何かいいキーワードを見つけていこうという運びです。

事務局に確認なのですが、キーワードをと求められてもどこから発言すべきかと、皆さ

まが悩まれると思いますが、どのように話を始めたらよろしいですか。

(事務局)

まずは、皆さんざっくばらんに、この新しくつくる複合施設にどういった機能を入れ込んだらいいのかというご意見をいただきたいと思います。

【会長】

わかりました。基本方針では、市役所の機能として入れたい機能を明記されているが、これが全てではないという前提です。プラスアルファ、民間の活用も含めて望まれる機能について話し合うことになっています。ここの資料4に書いてある4つの機能に縛られることなく、ぜひこの場所にこういう機能があったらいいなということを、どなたからでも結構ですので、自由をお願いします。

【委員】

子育て支援の視点からなのですが、「子育て親子が集う場として適した場所」というところが具体的な機能として挙がっています。子育て世代は、白河市の場合、色々な拠点で行っているイベント等がたくさんありますが、小学校低学年のお子さんが集まって遊べるスペースとして、学習スペースなど、そういったものがあってほしいという、周りの方からの意見がありました。また、ここでは飲食スペースと子育て機能の支援機能が分かれて書かれておりますが、子育てをされる方が、子どもを見ながら少しくつろげるスペースが一体化しているようなところ、というような場所があってもいいのかなという気がしています。

【委員】

高齢者の生きがいなどというのもあって、子どもたちと色々遊んだように、高齢者が昔の遊びを教えるという、そういうものもあっていいかなと思いました。健康づくりということで、私はウォーキングプールが良いです。大きくなく、狭いものでも良いので長いものが良いです。周りが濡れないように、ガラスか何かで囲ってあるイメージです。小さい子とお母さんなどにとって、そういうものもあっていいと思います。

また、お年寄りも、歩くということは健康一番なので、そういうものがあると良いと思いました。ヘルスアップのための色んな器具などというより、もう少し利用できるような感じがいいかなと思いました。

【会長】

利用できるというのは、市民が主体となって利用できるスペースということですね。

【委員】

はい。あと私が友達などに聞くと、駐車場がないという意見がありました。白河は良いところがあるのに駐車場がなくて行けないので、駐車場はしっかりとつくってほしいなという意見もありました。

【会長】

わかりました。続けてお二方のお話でしたが、子育ての話からすると、小さなお子さんではなくて、小学校低学年の方々も集まれるような場所がほしいということでした。放課後学級のような場所があったらいいなというご意見です。私もよく思うことですが、やはり子育てしている方が、少し預けている間に自分も余暇が持てることは望ましいですね。いつも見守っていると、それが逆にストレスになってしまうという話もあります。そういう意味で、子どもも楽しい、お母さんも少し息抜きできるという場所が一体化することが望ましいと思います。それがカフェなどと一体化するのでは、ということでした。カフェだけじゃなくて、ブックカフェのようになるのか、もう少し母親自体も何かイベントに参加する、サークル活動ができるなど、そのような活動の拡がりも含めてだと思えます。

あと高齢者も同様に、生きがいを感じるということであれば、多世代交流という意味で、高齢者は高齢者、子どもは子ども、子育て世代は子育て世代ということではなく、そこで交流が生まれるような場所であってほしいというご意見でした。

それから、泳ぐプールではなくて歩くプールというご意見でした。健康第一ということですけど、泳ぐとなると少しハードルが高くなるかもしれませんが、水中の中で歩くということであれば、どなたでも気軽に健康増進という場所になりますね。また泳ぎではないので、そこで多様な触れ合いができるなど、出会いが生まれるということもイメージされているように伺いました。

駐車場のことは、駐車場として利用している場所を建物にする案なので、最後まで検討項目として挙がると思われます。その都度、皆さまから望ましい駐車場のあり方や、周辺にある他の駐車場をうまく使いながら駐車場のネットワークのようなこともご意見伺えればと思います。

【委員】

少し概略的なところとして、市役所さんがイメージしているところを少しお聞きしたいです。例えば、建築基準法上の問題もあるので、対象地は何階建て程度建てられるのですか。もう一つは運営です。運営自体も行政の方が運営するのですか、それとも民間が運営するのですか。運営主体次第でもう少し私たちなど市民が希望する意味合いが変わってくると思います。行政の施設なのか、それとも行政が建てて、民間に中の運営を頼むのかということでもサービスの求める度合いということも変わってくると思うので、今の段

階でイメージなど決まっているのであれば教えてください。

(事務局)

まず一点目です。現時点では建物に高さ制限が設けられておまして、高さが15メートル以内の建物でなければいけないという制約があります。通常の公共施設ですと、3階建てぐらいが、高さ的には限界になってくるかと考えております。

面積は、敷地をどれだけ使うかで増やしていくことは可能なのですが、駐車場の確保を考えますと、あまり大きな建物にしてしまうと、駐車場の方がひっ迫していくということになります。その辺りを見合わせながら、これから出てくる案を踏まえて、どの辺りが適切なのかというのは今後、バランスとっていければと考えております。

それと運営の方針なのですが、色んな方法があろうかと思うのですが、例えばPFI、PPPといわれるような、官民連携した運営の仕方も非常に理想的ではあると思います。正式なPFIなどとなると、そのスキームをつくっていくのに時間もかかってしまう問題や、そこの運営の主体になり手がいるかという問題もございます。そういうものも含めながら、運営主体は今後考えていきたいと思っております。イメージとしては、民間の方に入っただけなのであれば、民間の方のノウハウなども積極的に取り入れていければという考え方は持っております。

【会長】

基本方針では、民間活力による事業手法の可能性を探りながらということですが、PFIを進めるとなると時間的にも制限があり現時点では少し難しいと考えているということですね。

(事務局)

そうです。PFIというとなかなか難しいかもしれませんが、できるだけ民間の方の運営や経営のノウハウなど、そういうものを取り入れられるのであれば、できる限り民間の方が運営できるような施設にしていければと思っています。もしそれがどうしても無理だということであれば、行政が管理する中にテナントとして入っていただくという方法が、最終的にはあるのかもしれませんが、その辺りは今、可能性を模索していく段階と考えております。

【会長】

わかりました。基本計画の中には運営方針まで記載するのですか。

(事務局)

可能性がある手法については計画書の方に記載はしたいと思っております。現時点で最良と

思われる方法はこういう方法だというような、そういう整理の仕方を考えています。

【委員】

3階建ての場合、その上に駐車場はできますか。

【(株) オリエンタルコンサルタンツ】

駐車場にすることも可能だと思います。ただ手すりなどは透明にして、景観に配慮するなど、そういうことは必要になる可能性はあると思います。

【委員】

わかりました。それから可能性の模索です。今回の計画について実は白河医師会でアンケートとったのですが、そういった何か制約があるのか、こういうものをつくっていいのかというような、たたき台以前に制約があれば、それを教えてください。

【会長】

ふさわしくないということですか。

【委員】

そういうことも含めてです。現在、保健センターのすぐ隣に白河医師会があります。これが非常に便利なのですが、複合施設に保健センターが入った場合、保健センターがなくなってしまうと寂しいという意見はあります。一緒にくっついていけるのか、例えばそういう話が出た場合にそれが可能かどうかというのを、今の段階でわかれば教えていただきたい。

(事務局)

例えば健康増進機能ということで、保健センターがこちらに移転した場合に、それと連携して健康増進に寄与するような機能が付加されるということであれば、構わないと考えます。もし医師会の方と、市の健康増進の担当部局が、近くにいることに大きなメリットがあって、それによって健康増進につながるようなことが展開していけるのだということであれば、当然それは歓迎すべきことだと考えております。

あとは先ほど出ましたように、スペースの問題です。それはまた具体的に詰める必要がございますが、基本的にわれわれとしては、箱をつくるというよりは、そこで何か市民の健康、子育てなど、そういうものに役立つ場をつくっていきたいというイメージをしています。市が、先ほどお示ししましたような行政機能を入れ込んで、それと連携していただいて、より相乗効果が生まれるようなものであれば、歓迎させていただきたいと、基本的には考えています。あとハード的な面、経費的な面など、そういうものはまた別途検討

しなければいけないと思います。

【委員】

それ大事ですね。私からは以上です。

【委員】

アンテナショップ的なものがあっても便利だなと思います。それと地下は何階までできるのでしょうか。地下はつくれないなどありますか。

(事務局)

今の市役所の本庁舎もそうなのですが、地盤がかなり固く、掘削にかなり苦労したというような話を聞いています。それでコストが増大してしまうのではないかと、というところを正直心配しております。

【会長】

その辺りはコストなどの色んな絡みで、地下という可能性もないわけではないということですね。

(事務局)

コスト的に見合うのであれば、有効利用したいと考えていますが、現時点ではなかなか厳しいと認識しております。

【委員】

市街地には、イベント広場やマイタウン白河があり、それぞれが機能を持って働いているという感じがあります。それではない何かがあると、お互いに共存していけるという感じがします。せっかくあるものから取ってしまうのではなくて、ないものをここで補うようにしていくと一番良いですよ。

先ほど言い忘れましたが、防災ブースみたいな、もし災害起きたときどうしようというのを体験するコーナーがあると良いかと思います。

また、食事のときはこうしましょう、トイレではこうしましょう、水をなるべく少なくするにはこうした方が良いでしょうよという、そういう知恵、つまりおばあちゃん、おじいちゃんが持っている知恵袋。それを地元の人に、子どもたちに教える。だから遊びだけではなくて料理など、そういうのも良いかな、なんて思います。

あと講座をもっとやりたい。こういう講座があるといいなというのがあれば、皆さんから、市民から希望を出してもらって講座をすることが良いかな、と思いました。毎月、何かしらのイベントを開いて体験してもらい、楽しんでもらうというようなことが必要か

な、と思いました。

【会長】

いいですね。ありがとうございます。

【委員】

福祉避難所にもなるのがいいかと思いますが、近くに谷津田川があるので、氾濫して水が押し寄せたらどうしようなどと考えると、もう少しバックしてもらいたいとも思いました。

【会長】

ここは小峰城を見るという景観を活かすという意味でも、高さ15メートルと決まっていますので、なかなかそこを打破するのは難しいのかもしれませんが。今のお話の中で、災害が起きたときにどうしようでは遅いので、日常的に災害時のことを考える場所を集う場として使うというご意見は、魅力的なアイデアと思います。そこに、例えば専門家で、先にお話があった医師会の方もおられ、困った時の対応なども日常的に教えてもらえることでコミュニケーションが図れると思います。日常から非常時のことを意識できるような機能や、施設を使う人のコミュニティを作っておくことは大変重要かと思いました。他をお願いいたします。

【委員】

今のお話に対し少し補足なのですが、この間の台風19号のときに、私は消防団の方におりました。当日は市役所に午前1時過ぎまでいましたが、実際に対策本部というのが、大変狭く、集まってきた消防団がいるスペースもないぐらいのところなのです。スペースは普段裏返しで良いので、救助の際にその部屋を逆転して、防災の情報収集。それから有効な発信をするべきスペースというような、ハード部分の備えをぜひお願いしたいと思えます。

この間のときに体験したのが、有効な指示を出せないことです。有効な指示を出そうと思って、例えば交通止めを行うわけです。地元の消防団は、その現場に行って、電話では連絡を取っている。しかし結局、そこから行かないでというバリケードさえもないのです。どこに行けばそのバリケードを借りてこられるのかという情報もない中、結局はバリケードができるまで、その団員たちは、雨の中、ライト持って濡れて外にいるわけです。そのときに、この施設に行ってこういう連携で、これを持ってきて、そこに置いて、君たちはそこから撤退していいよ、という指示を出せるような場所も、現在はこの部屋の4分の1程度の中ですべてが賄われています。

それから先ほどお話にあったとおり、体験コーナーというか、決まった回数での体験は

必要だと思います。台風などの災害は増えると予想されているので、やはりそのときに知恵をつけるというところの場所は必要だと思います。

それからもう一つは飲食なのですが、食堂などカフェというのは入れるべきだと思います。ここでただ一つ、縛りとして、健康維持のための栄養、食材、それから定番メニューなど、その辺りで見栄えが良いものや、インスタ映えするようなものではなくて、こういう食品を食べると健康になる、というメニューを提案するような食堂であるべきだと思います。

【会長】

ありがとうございます。今のご提案も大事なことだと思います。通常時は通常で、にぎわいとして使う空間を、いざとなったらいざとなった時に使えるように機能を盛り込んでおくということですね。そこがそういう場所だと分かっている日常的に使ってもらえれば、何かあった時にあそこに行けば情報が分かるという意味で、市民の安心安全の場所にもつながると思います。ぜひそのような市役所の機能があれば、市民もそういう形で日常的に利用する場所になれば良いなと思います。

【委員】

避難場所として、各体育館を開け、次々と対応はなさっておられましたが、それにもう一つ、中心的な機能を持たせてほしいというのはあります。対策室というのがあそこに立ち上がるイメージです。

【会長】

非常時に連絡がよく取れるように情報機能も常備しておく、ということですね。

カフェや食堂をつくった場合、周辺店舗と競合してしまう点を避けるという意味でも、その健康増進に特化すべきと思います。例えば子どもの苦手な食材克服のために、上手に料理をする方法など。今後オーガニックなどが注目されれば、食材自体に意識を向けることは良いと思います。また、地場産を使うことも特化して良いと思います。大変前向きな意見をいただきました。

【委員】

今まさに何が問題かというところ、中国の肺炎ですね。いわゆるコロナウイルス。あれが報道されています。あれはここに来るのでしょうか、そういうことはまず考えていなければいけないと思いますね。

今日来た患者さんが、「私はAmazonでマスクが買えなかった」、「ドラッグストアに行ってもマスクが売り切れだ」、「どこに行ったら買えるんですか。」と来るのです。感染症も災害というものの一つと考えなければいけません。もちろん地震や台風や雨風よ

って起きる災害は、たしかに目に見えた災害です。ところが人間が不安に感じるような災害はあるのです。それが今回のコロナウイルス。もしかしたら日本にも来るかもしれません。そういった意味で、備蓄をするということ。それから安心感を持たせるような施設であるということが必要だと思います。

【会長】

ありがとうございます。まさしく何を信じたら良いか分からないような状況で、もし何か起きたときにここに来れば安心・安全な生活の維持の方法と手段がわかるということですね。あと、隔離されたなどというイメージではなくて、白河の市民として人権を尊重しながら、もしそういうことがあったときにも安心して暮らせるという、そういう安心感が与えられるような情報発信が必要だという、大変有意義なご意見でした。

放射線量のときもそうだったと思うのですが、人間は目に見えないものに対して一番不安に思います。今後どのようなものが来るかが分からない、どんどん新しいものが来るという可能性もあります。白河市は、そこをしっかりと市役所の隣で支えるという姿を見せることは、市民にとっても大変有意義な施設になると個人的には思います。

【委員】

三点お話ししたいのですが。まず災害の話が出たので、そこからお話ししたいなと思います。その対策など防災拠点がというところもそうなのですが、やはり今いる大人もそうですし、これからの、この白河を担っていく子どもたちにも、もう少し白河での活動に興味を持ってもらいたいなと思っています。委員からお話ありましたが、消防団は、今、若い人たちが興味を持ってなくて、なかなか人が増えない状況にあります。でも消防団がないと実は地域が困るのです。そのため、子どもたちにも、白河で起こった災害など感染症での動きというのを何か映像などで見る事が可能な機能が必要だと思います。そういったものを盛り込みながら、災害が起こったときに、例えば自分のおうちの人がいる消防団はどういう活躍をしていたのかなど、感染症が以前起こったときには白河市でどう動いていたのかなど、そういったものを見る事が可能な、興味を持てる何か機能が、プラスアルファがあると良いと思います。防災訓練だけではなくて、もう少し白河を好きになってもらったり、Uターンで戻ってきてもらったり、長期的な視点にはなりますけど、そういった視点も良いかなと思いました。

あと二点目は、生きがいづくりの機能と書いてあるのですが、少し前の世代とは違いうちの親も年寄り扱いするなとよく言います。仕事を退職されて、今年定年が60歳の会社もありますし、65歳の会社もありますが、退職すると、年寄り扱いされますが、でも全然元気だと言います。そのため、生きがいづくりなど、全部が全部年寄り扱いというのではなくて、逆に今いる若い世代の人の一助になれるような、そんなネーミングづくりも必要です。運動などだけではなくて、頭を使うという部分にもスポットを当ててつらいいか

などと思います。

最後三つ目は少し重い話なのですが、なかなかこういう場では出ない、白河市特有の抱えている問題があります。例えばですが、よく白河警察署の方も言うのですが、白河市はほかの地域よりDVが多いということです。あとは片親世代が多い。少し片親のことは統計的にはわかりませんが、DVが多いそうなので、そういう見えない課題にも取り組んでいけるような施設にする必要性もあるかなと思います。

先ほど先生がお話ししていたように、子育て世代って子どもにスポットを当てられがちなのですが、実はお母さんやお父さん、育てているその親世代の人たちの方が、実は色々抱えていたり、ストレスがたまっていたりするのです。そういったところにスポットを当てたりできればと思います。あと今日ニュースにもなりましたが、40代後半の世代が一番精神的に落ち込みやすい、それはこれからの健康の問題なのだそうです。子どもが二十歳過ぎて家を出ていってしまい、高齢者の親世代だけおうちになったときに抱える問題など、そういったところにも何か目を向けられる施設になると良いと思います。

【会長】

わかりました。ありがとうございます。いずれも少し観点を変えながら大事なところを明快にご指摘いただいたご意見でした。消防団の活動が見える化をされないと分からないので、新たな担い手が増えないという話でした。消防団の活動によって今の身近な安全が守られていることを伝えていくことも大事です。それは消防団だけではなく、町内会に入らない、祭りのみこしの担い手がいないなど、そういうことにも全部つながってくると思います。まちは実は皆で助け合っている。誰かが誰かのために助けていることでつながっている、ということがわかる場所であってほしいという気持ちに共感いたします。

どうしても施設をつくろうと思うと、利用者の属性分けをして考えてしまいがちです。今回は、そういうことはしたくないと考えている事務局だと理解しています。誰々のためにということではなく、多様な人々が集まってきたときに、そこで多様な活躍の場がある。市民一人一人がこの場所にきたことによって、1日やすらぎを得る、生きがいを感じるなど、そのような場であってほしいというご意見だと思います。まさしく今、委員がおっしゃっていたことを、うまく伝わるような機能が整備できると良いと思います。今日答えが出る話ではないと思いますが、次回に向けて少し形になることを期待したいです。

【委員】

皆さんが言っているのとはほんとに全部が一緒にはなりませんが、やはり子どもたちと、その他、総合窓口というところなのですが、ここに行けば安心できるという、そういう場所にしたい。子育てにしても高齢者の問題にしても、みんな漠然と悩むということが結構多いですが、どこに相談しに行ってもいいかわからない。行政につなげる人は良いですが、行政まで行かず、うちの中で悩んでしまう方が多い。すごく悩んでという方たちが多くて。

ここに行けば、なんでもという専門家がそこにいれるかというとまた別なのですが、ここに行けばなんらかの、行政も近くにあるので、何かをつなげてくれる。ここに行けば何かを教えてくれるという。専門家の配置は無理にしても、そういう場であってほしい、そういう場をつくってほしいというのが一つあります。

今、保育園にしても、預かる子どもさんの、もちろん一人一人を対応していますが、その保護者対応ということに関して、保育士さんたちが悩むところでもあったり、自分のキャパ以上のことをすることも今は必要になってきています。保育士さんにしても、介護の介護士さんにしても、いっぱいいっぱいの中でやっている状況です。人数も足りなくて、募集というか、その人数でできるかといったら、それ以上のことを求められている中でやっているんですね。そういう人たちがストレスを抱えてることが多いと思います。少しそこも心配しながらいますが。そういう人たちが、白河の市民を幸せに、心などありますよね。心を幸せにするためには、そういう人たちの憩いの場というか。医療に関して、すべてがそうだと思うのですが、その方たちがストレスだけがたまってしまうのではなくて、そういう方たちも駆け込めるといって、一緒に共有できるスペースというのがあったら良いのかなと思います。みんな単体で、会社など、そういうところで抱え込んでいるところが多くて、それを行政になかなか伝えることもできないということも多くなってきているような気がします。そういう市民を幸せにするサポートをする人たちの憩いの場も、憩いというか集いの場も、話し合いの場も、そこに行ったらほっとして、カフェかもしれないですが、コーヒーを飲めるところがあると良いです。すいません、うまく言えないですが、そういう場があると良いのかなって思います。

【会長】

からだの幸せもありますけど、こころの幸せという考え方が、本日、皆さまから出された気がいたします。からだの幸せに関する施設はジムみたいなもので、体を動かすなど、皆さまがイメージできると思います。こころの幸せを得るための場所が、具体的にこの建物の中で再現できると、本日の皆さまからのご発言につながってくるように思いました。

おそらく、子どもは別にしても、大人は何かしらの役割を果たして生きていますので、その役割を担っていることが辛いと思った時に、ここに来ればその役割を一旦外して、素の自分として何かに向き合える、そういうことが必要とされていると皆さまが発言されているように思いました。役割分担や務めなどというものを一旦忘れることができ、そして誰かの役に立つ、誰かと出会うことで出会った市民の役に立つというか、そして市民が別の人たちとまた出会うことによって、みんなが集まりやすい、安らぎを得られて幸せになるというのでしょうか。おそらくこのようなことを皆さまが発言されたと思います。少し哲学的な話ですので、建築空間に具体的に結びつけるには難しさも感じます。しかしながら、これから新しい時代に向けて、そのような場所ができれば、白河で新しいことに取り組んでいると受け入れられるように思いました。次回に向けて、ふさわしい言葉で表

現できるように、私も含め皆さまにも考えていただけると幸甚に思います。

【委員】

防災機能の追加として、白河地域に特化したコミュニティーFMなどあれば良いかなと思います。

【会長】

白河市はコミュニティーFMをやっていないのですね。今、ネットでも聴けますので、意外と需要はあるようです。また、コミュニティーFMを媒介としたネットワークも構築されるようですので、実空間に属さなくても成立する安心・安全な場として良い提案だと思います。災害時だけではなく、常時使えるという点でも可能性がありますね。

【委員】

少し話が偏ってしましますが、以前、子どもと一緒に利用した施設ですごく良いなって思った施設がありました。東京の大井町にあるのですが、色々遊べる施設が外と中であって、カフェスペースが全面ガラス張りで、施設の真ん中にある施設です。私はお友達のお母さんたちなどとカフェをしながら、全面ガラス張りなので、子どもたちが敷地内の外で遊んでいる様子を見ながらお茶ができました。そういった施設をつくるとなると、どうしても箱の中に色々入れたくなるのですが、福島県としても、健康推進事業って色々取り組まれている中で、外で遊ぶという部分もすごく必要なのかと思って、そこを利用したときは、すごく良いなと思いました。

【委員】

先ほど、被ってくるかもしれないですが、地場産の野菜などを売るような施設があると良いです。安く提供でき、その地場産を利用して食事を提供するというのも必要かなと思います。貧困家庭も増えてきているというところで、子ども食堂というのが白河市にも何か所か出てきているという話を聞いていますが、そういったものを併設するというような形が良いと思います。どこまで利用できるなど、そういうのは難しいことはあるかと思うのですが、そういったところが一緒に入ってくるのも良いのかなと思います。

【会長】

先ほどあったように、少し助けが欲しいというか、少し手を差し伸べればもっと安全に、そして心のやすらぎが得られるかもしれないという人を少し支えるという意味では、子ども食堂もあるかもしれません。また子どもだけじゃなくて高齢者でも、そこに行けば1日分の野菜が取れますなど、そのような食事の提供方法などもあるかもしれませんね。

事務局にお尋ねしますが、こういう形で今進めておりますが、特に方針・コンセプトと

いうように絞り込まずに、自由に話していただくのでよろしいですか。

(事務局)

その方が良いと思います。

【会長】

わかりました。まだお時間ありますので、ぜひお願いします。

【委員】

駐車場の話をしましたが、駐車場も多く置けるようにして、1回100円でも良いので取るというのも良いと思います。この施設に入る人しか入れられないではなくて、ほかにも利用したい人もいますので、少しでも料金を取って利用できる仕組みにした方が良くと思います。

【会長】

最近まちなかでは駐車場が足りないということもあって、まちなかの駐車場をコインパーキングにして、施設利用の場合は例えば2時間無料にする自治体も見られます。車を止めて施設を利用して終わりではなく、止めてまちなかを歩き、周辺商店を使ってもらうことを促すために、少しはお金を払うような感じにはなってきています。

先ほどの参考資料では周辺に駐車場はありますが、大規模な駐車場はないこともあり、便利さを考慮しますと、この計画地の駐車場はポテンシャルが大きい場所ともいえます。そうなりますと市民の駐車場の使い方など、利用の仕方に対する意識改革をしていく必要があるかもしれません。

参考資料の丸がついているところ、小峰城の方は別にして、活動ができる場所、こういう会議ができる場所など、人が集まれる場所は、どこの施設もいくつかは持っていますか。

(事務局)

この図面でいいますと、先生おっしゃったように、小峰城は史跡公園という形になりますが、その二ノ丸茶屋というのは、おみやげ物なんか。先ほど出たような物産品の販売です。野菜まで売ってありませんが、そういった使い方ややり方によっては可能な一つかと思えます。あと市民が活動できる場所ということであれば、やはりマイタウンなど、あと屋外であれば駅前のイベント広場、それから図書館、コミネス、公民館ということになります。あと、この一番東が、右側の方になりますが、脇本陣の蔵座敷というところも、蔵座敷ではありますが、貸し出しはしておりますので、そういったところも場合によっては、何か活動には使えるということにはなっています。

【会長】

わかりました。先ほど委員がおっしゃったように、すでにある機能はそこを使い、ない機能をこの施設に持ってくる、という捉え方が望ましいと思います。施設を点として捉えずに点をつないでいくという考え方です。市民が利用できる施設が複数点在する面的な城下町地区の捉え方で、市民が使いたい機能を求めて場所を選ぶということになりますでしょうか。この建物ができたことによって、市民をはじめとする人々がまちなかを動く姿が見えるといいですね。

先ほど委員の方から地場産の野菜を、とのご意見がありました。地場産の野菜がいつも置いてあると、「何かイベントやりましょう」という話になったときには、そこにあるものを今度、外に出して、マルシェみたいな形での展開に広がる可能性も見えてきます。やはり新鮮なものを買いたいという需要もあります。スーパーで便利で安いものだけではなく、顔が見える野菜だから買いたいというライフスタイルの方もいらっしゃいますので、そういう人たちと新たにつながるという意味でも魅力的なご意見です。健康という意味でもつながってきます。

まだ時間がありますので、補足があれば、事務局の方からお願いします。

（事務局）

先ほどコンセプトの全体のお話をしましたが、今例として挙げているのは「白河の希望、活力とやすらぎの城」ということで、ここでは例えば希望ですなど、活力ですなど、やすらぎ、城というキーワードが出ていまして、先ほど委員の方から安全など安心というキーワードも出ました。ここの整備コンセプトを作っていく中で、皆さんがよかったら、単純な言葉で構いませんので、こんなキーワードが良いというご意見があれば、いただきたいと思います。

【市岡会長】

単語でよろしいでしょうか。

（事務局）

単語でいいです。単語でいいんで、例えば絆などというふうなものもあるでしょうし、そういうご自分のお考えをおっしゃっていただければ。

【委員】

これは、その建物の名前になるのですか。たとえば、市役所第2号館とか。

（事務局）

この施設はこうありたいという施設のコンセプトと言いますか、将来像と言いますか、

そういうものになりますので、建物の名前とは別になります。なので、ここは集まる場所をイメージして、城というのを例示しましたが、ここに建てる施設を少しイメージできるような、そういうものをご提案いただきたいと思います。

【会長】

わかりました。これは決定案ではないので、イメージでこういう言葉がいいなどと、浮かんだ言葉があればお願いします。

【委員】

少し言葉思い浮かばないですが、子どもでも大人でも読める平仮名がいいかなというのが一つと、あとイメージ的には何かマイナスなところからプラスにするというイメージではなくて、現状からプラスアルファにするというイメージの言葉がいいかなと思って考えています。

【会長】

本日の皆様のご意見を総合すると、心のやすらぎという方向に向いているので、活力などの漢字二文字でどんっと押してくるというよりかは、少し柔らかく包むというコンセプトの言葉がふさわしいという印象を持っています。お城が良いとすると言葉が結構固いですが、それで包み込むという感じが出ていると思うので、前の方は柔らかい言葉の方が良いのかもしれません。分からないですが、ほっとやすらぐなど、そういう言葉です。

【委員】

やすらぎは介護施設に感じます。

【会長】

そうですね。また少し違う方がいいかもしれませんね。

【委員】

少し情報を仕入れてからの方が良いかもしれません。

【会長】

そうですね。介護施設と思われまして、それはそれでまた違うイメージになってしまいます。こういった気になること、なんでも構いません。この言葉って言われてしまうと、なかなか難しいかもしれませんが、笑顔がある、笑顔が集まるなど、みんなの顔が見えるという感じが良いような気がします。箱ではなくて場をつくるという話なので、活力と言われると重たくなってしまう気がします。

(事務局)

会長、よろしいですか。

【会長】

お願いいたします。

(事務局)

せっかく皆さんお集まりいただいたので、お伺いできればと思っていたことがあります。これからアンケートの結果も集約されて、市民はどんなものを望んでいるのかというところは見えてくるのかと思います。これまで色々聞こえてきた中で、例えば小児科なんという声もよく聞こえてきます。現実問題、小児科の先生など、そういうクリニックなんかを、その中に入ってもらおうということは可能なのか、もしくはそういうものを模索する場合の手法やコネクションなど、何かごヒントあれば、伺いたいと思います。

【委員】

ご存じかもしれませんが、白河医師会の中で、小児科は3件になってしまいました。2人亡くなってしまい、1人はご病気でお休みになっています。

実はもう一つ、そういう話があります。白河市は、確か白河市に住むことを条件に、開業医に対しての補助金を出しています。西郷村でもやっていますが、西郷村の方が条件は良いみたいです。今、例えば福島医大ですね。地域枠をつくって、何年かしたら、この地域に、その地元のお医者さん戻してくれよと、そういうことはありまして。卒業生が卒業して何年かの方々がいます。ただ、今の教育センターで先に初期研修というものを行って、そのあとにどちらかの病院で研修をするということになります。そうすると初期研修は地元でやったとしても、初期研修は2年ですから。3年目以降は自分の行きたいところ行ってしまいます。その制限はないのです。将来戻ってきますよ、という話をしたとしても、何年かして、例えば結婚したいなど、子どもができて、となれば、おそらく戻ってくることは非常に難しいことではないかと思います。ですから地元の人が、せっかくここで生まれ育って教育を受けて、ということを期待することは当然ですが、どこでもなかなか。特に地方ですね。福島県ももちろんです。郡山でも福島でも。福島市はこの10年くらい小児科の開業がないそうです。そういった地域ですから、地方の医療というのは、ますますおじいさんばかりになってしまうと、そういうふうに私は考えています。

その中で、子育てはすごく大事だと思うのです。それはお医者さんでなくてもできますから。ベターなところだと、お母さんなど、それから何か苦労した話を聞かせてくれるような、そんな機会があればいいなと思うんですね。

それから高齢者。この前の資料を見せてもらいましたが、ほぼ日本と同じぐらいの高齢化の進行なのです。ですからピークは2040年です。そうするとあと20年、年寄り

が増えるんです。普通は、年寄りが減ってくると、次は人口が減ってくるんですね。そういった時代に、お医者さんは何をすべきかと、そういうことは調べます。それを見ながら行政など相談しながらやっていきたいと思います。明解な答えは出せません。それが答えです。

(事務局)

ありがとうございます。

【会長】

最初におばあちゃんの知恵を、という意見がありましたが、そういう方々の生きがいの子育てで悩んでいる人たちとマッチングすることがあると良いと思います。小児科などのお医者さんは呼べないにせよ、白河のネットワークの中で、白河で子育てするならばのノウハウ、楽しみや大変なことなどですが、そのような知恵が伝承されることは可能かもしれません。多くの人の知恵が積み重なることによって、白河での子育て情報が集まるという、そういう安心・安全な場所の使い方はありますね。同様に高齢者でも可能かと。

私の母は東京在住の後期高齢者ですが、お医者さんの方が若いので、言ってもなかなか分かってもらえず、年取ったからですね、と一言で終わってしまうとよく話しています。子育てと同様に少し年上の人と話ができる、例えば70の壁はどう越えたの、75を超えると何がしんどくなるの、みたいなことを気軽に話し合えるような場があると、病院に行かなくても自分の健康を維持するコミュニティとネットワークができそうな気がします。お話を伺いながら、常に教えの場がほしいと話す母の話を思い出しました。

先ほど委員が発言されたイメージは、漠然と悩んでいる人が、ここに来たら誰かとつながることができ、安心できるイメージだと思います。この施設は、一步踏み出して集うことで心が健康になり、体も健康になるという場のイメージが共有できた気がいたします。この内容が全てではございませんが、ここを一つのベースにしながら、委員がおっしゃったように、何かがあったときには、それが非常時には最大限活躍できるような場として、本来はそれを市民のための賑やかなまちに寄与できるような場のつくり方という、その辺りが今日の話題としては集約できたように思います。その他、何かございますか。

【委員】

コンセプトは、市役所さんの挙げているのがありますが、委員がおっしゃったように、白河の施設も、文化交流館のコミネス、図書館はりぶらんという施設名称があります。なるべく公募したものを、そんなふうに皆さんに分かりやすいイメージの言葉を持ってきてあげればいいのかと思います。少し僕がひねくれています、少し全般的にメニューがたくさんあって、これだけのエリアのこれだけの施設に、これだけのばら色のものが、そんなに入らないだろうと思っています。私たちがすべて決めるわけではないにせよ、少

しばら色過ぎるかな、と少し思ってしまう。まだ最初の段階なので、もっと特化して、もう少し絞ってもいいのかなと思います。確かにどれもこれも欲しいし、どれもこれもあったら良いと思います。なんとなく、こんなにいっぱい入らないのではないかと思います。もう少し具体的に、白河市のこの場所に、もう少し特化した、健康増進に特化して、その代わり他市町村には絶対負けないような施設とした方が、なんとなく、もう少し絞りやすいと思います。これ全部入ったらとても良い施設になると思うのですが、なかなか、予算の壁など、色んな壁が現実的にあるような気がします。

【会長】

今日のところはとにかく広げましょうという趣旨なので、それで最初から絞ってしまうと拾い上げる言葉自体が少なくなると思え、まずは委員の皆様からより多くの様々な意見を聞きたいという事務局の方針に合わせて、自由にお話ししていただきました。次回には市民アンケートの結果も出てきますし、今、委員がおっしゃったように、建物の規模や立地条件など、様々な諸条件を鑑みたときには、優劣が当然出てくると考えられます。次に向けてはこのあたりを整理しながらとさせていただく所存です。委員がおっしゃったのは、資料4の計画地に導入する公共施設の案に4つの機能がありますが、これ自体も多いというイメージですか。

【委員】

そんなふうにも感じます。

【会長】

これ自体も少し広げすぎではないかというご意見ですね。先ほど3階建てになりそう、などの様々な制限を考えているというご意見だと思いました。今回、土壌をとにかく大きく広げた中から、できる場所にしっかり杭を打っていくという話だと思います。もしかしたらその4つの中でも、優劣をつけながら整理していく必要があります。

そろそろ、終了予定時刻が近づいて参りました。最後にご発言という方はおられますか。本日は、とにかく皆さまからざっくばらんなご意見を伺いたいという会でしたので、非常にいいご意見をたくさんいただきました。委員からは医師会としてのお立場から、消防団のお立場から、大変参考になるご意見を賜りました。また、実際にまちづくりに取り組んでおられる立場から見た現実的なご意見をいただきました。そしてお集まりいただいた皆さま、その他の皆さまも、それぞれ大変有意義なご発言いただきまして、ありがとうございました。

(5) その他

【会長】

議題のその他について、何かございますでしょうか。

(事務局)

次第の(3)を見ていただきたいのですが、次の第3回と第4回の懇談会の日程が決定しております。次回の第3回なのですが、2月20日の木曜日、1時半からで、場所は本日と同じ、こちらの場所になります。第4回は3月の27日の金曜日。場所はここの会議室の一つ隣の会議室になります。5回目以降については、決まり次第、皆さまにご連絡いたします。

【会長】

わかりました。ありがとうございます。それでは、特に皆さまからご質問等がなければ、本日の検討懇談会はこれで終了ということで、私の任は解かせていただきます。大変闊達なご意見をいただき、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、検討懇談会を終わりたいと思います。ありがとうございました。